

えぽく

第2巻5号通刊14号 2001年6月8日発行
合資会社金井書店発行 営業本部編集
〒161-0032 東京都新宿区中落合42-116
TEL 03-59962888 FAX 0339537851
URL <http://www.kosho.co.jp>
E-mail office@kosho.co.jp

新古書店&出版・考

すっかり定着した“新古書店”がいろいろと話題になっています。従来の書籍販売業は新刊書店と古書店の2業種に大きく分けられていました。貸し本店が流行った時期もありました。今の流行は“新古書店”です。

話題になる要素はいくつもあるのですが、今、ホットな戦いが始まっています。それは、著作権です。地球資源保護の観点からククルされることが、作家の利益いや、減少してです。我々古書店さんが今盛り本も売りますが、含めあらゆる書物が取り扱い対象です。新古書店は、年月が経過した本は対象から外していき、新しい本を安く大量に売ることを中心に営業しておりますので、標的にされるのでしょうか。

以前は、初版本を買い求める読者が沢山いらっしゃいました。芥川賞など、受賞作が発表されると新刊書店に飛んでいき、帯付きの完本を買い求め、大事に保有したものです。あの“蒐集欲・独占欲”がいつの間にか衰退したのは何故なのでしょう。

限定版を蒐集する方もいらっしゃいましたが、今は減少しております。一時、限定版と言いつつながら、1500部、2000部発行されました。希少性は全くと言っていいくらい薄れました。限定版と言われても有難味が無くなったのです。

近年は、住宅事情、経済事情など様々な理由で、所有意欲が減少しております。所有してなくても、いつでも好きなときに手に入るぐらいに物があふれた時代、風潮に馴染んできたと言うことでしょうか。

目先の利益を追求しすぎて、あとで後悔することがないように、二歩三歩先を見て、古書店として永くお役に立てるように努めて参ります。今後ともよろしく願い申し上げます。

金井書店グループ営業本部 花井敏夫
スタッフ一同

スタッフのメッセージ

私はこの古書店でアルバイトとして働いています。ここは古めかしい建物の中で頑固な店主がせっせと仕事をしているという、従来の「古本屋」とはイメージが全く違い、もっと近代的で、若者からお年寄りまで幅広い年齢層の人々が気軽に入れるお店、といった印象を与えてくれます。ですから、私のような若者たちが働く場としても馴染みやすい環境なのです。

私が担当しているのは、本をきれいな状態でお売りするための仕事です。研磨機を使って本の表面を磨いたり、店頭に出した商品が汚れないように機械を使って本にビニールを掛けたり、棚入れをしています。

昔はヤスリを使って一冊一冊時間をかけて研磨をしていたそうでしたが、今は便利になりました。電動で一度という間に研磨のすべり、仕上げが簡単に出ます。

ビニール掛けば簡単に仕上げのビニール袋に機械を通せば、ビニールは熱で収縮して、きれいに本を包んで出てきます。ビニールに包まれた本が出てくる瞬間を見ると結構気持ちが良いのです。

棚入れも重要な仕事です。お客様が見やすいように、取り出しやすいように気を遣いながら丁寧に本を棚に並べていきます。単純な仕事ほど気を引き締めて取り組む必要があるのだと思います。

どの仕事もお客様に気持ち良くお買い物をしていただくために一生懸命やっています。古書店では一度他のお客様がお読みになった本を扱うので、手入れも入念にしなければお客様に満足していただける商品をお届けすることは出来ません。ですから、私たちアルバイトの仕事も重要であり、やりがいのある仕事だと思っています。

八重洲古書館 アルバイト



が、今は便利研磨機を使えば、数冊があっという間に完了。この私にも簡

も機械を使えます。専用本を入れてビニールは熱で



TEL & FAX 03-3272-2888
営業時間 10:00~20:00



TEL & FAX 03-5204-2888
営業時間 10:00~20:00
(土日祝 11:00~19:00)

〒1040028 東京都中央区八重洲2-1 八重洲地下街
年中無休(元旦のみお休みさせていただきます)

ご意見ご感想ご提案をお待ち申し上げます。

書籍の保存修復・製本

保存 (Conservation) と修復 (Restoration) の仕事に境界線を引くのは難しいところがあります。一般に Conservation の分野ではそのものの現状維持、Restoration の分野では復帰作業に重点をおくようです。また、書籍の修復には製本の技術が必要です。

ここでは洋装本の '保存修復' というひとつの分野としての内容を、製本の分野とのちがいと合わせてお話ししてみます。

保存修復の仕事は原作の仕事ではありませんので、オリジナルを変えてしまうような作業はできません。

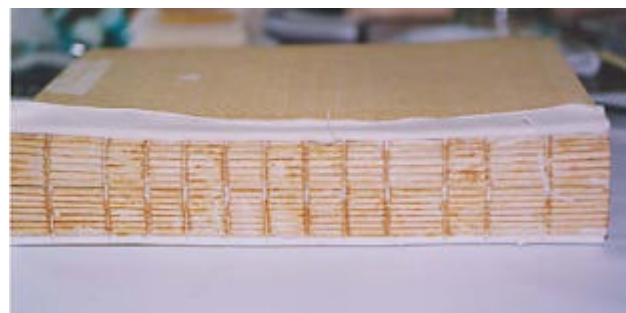
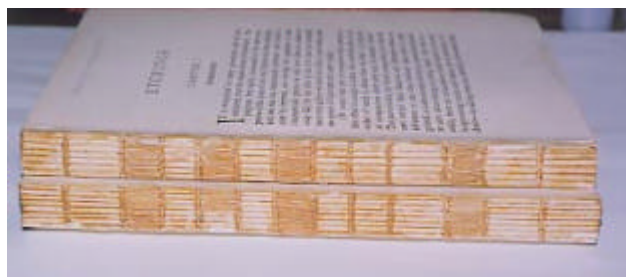
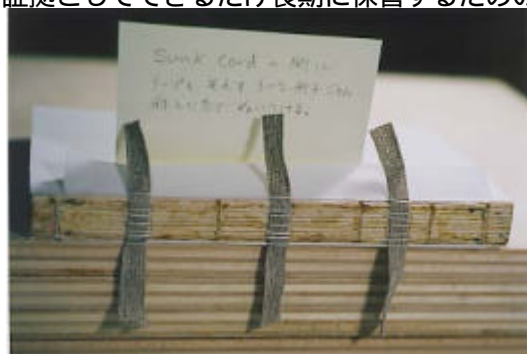
そして、そのものの将来の目的によってどのような処置をするかが左右されます。書籍なら展示するためのもの、閲覧のためのもの、歴史的証拠としてできるだけ長期に保管するためのもの、などが考えられます。

展示のためなら、多少綴じがゆるんでいても大丈夫かもしれませんが、閲覧用となれば堅牢さが必要です。歴史的証拠なら、どんなに傷んだタイトルや見返しでも取り替えることはできません。(写真2)

そこで、修復家の仕事はこれらの点の確認から始まります。依頼主の意向にもよりますが、希望を十分理解したうえで、どんな処置が必要かを提案します。このとき、原物の状態を修復家がよく観察できることが大事です。修復家の提案、意見は実は様々です。彼等がどのようにものを残すべきと考えているか、それまでの経験や、教育の影響があるからです。本の寿命を延ばすための方法を提案する点は共通なのです。しかし、適切な処置のためでも、解体すること自体が本へのダメージになることもあるのです。(写真3 4 5)

例えば、本体の背部分が、そこについている膠(にかわ)のせいでひどく酸化してぼろぼろになる恐れが考えられます。しかし、それを中性の接着剤に換え、酸化した本体を水洗いして中和させるためには、見返しをはがして表紙部分と本体をはずさなくてはなりません。この

解体作業で、オリジナルの劣化した革の背表紙がだめになり、見返しに使われた手染めのマーブル紙がやぶれてしまうかもしれません。この場合、どちらをとるべきでしょうか。(写真6次頁上)こういった予測や材料の特徴などの説明は修復家の仕事の重要な部分です。



休仔修復の理心として、

- 1 将来の再修理が可能な作業、材料を選択する
たとえば接着剤なら、乾燥したあとでもなんらかの低刺激の溶剤が、水で溶かして取り除くことができるものを使用します。(写真7)



- 2 状態の記録をとる、作業の記録をとる

- 3 本体に酸化などの悪影響をおよぼさない材料を使用する
酸性の材料、強すぎるアルカリ性の材料をつかわないようにします。(写真8)

- 4 元の状態以上に復元しない

黄変した紙の漂白、彩色、見た目の回復のための再製本、小口の断裁などはどうしても必要な場合にのみ行います。

- 5 歴史的な意味、価値のある証拠を尊重する

寄贈の日付、サイン、オリジナルの箔押しなどの必要性を尊重します。

オリジナルの傷みがひどい場合は別に保管することもあります。

- 6 さらなる、外的なダメージを防ぐ、あるいは最小限にする

そのためには悪影響の原因をあきらかにして、それを無くしたり予防の手段をみつけます。(温度、湿度の調整、照明、閲覧の制限など)

- 7 無傷の状態にするのか、本としての使用に耐えるようにするのか

図書館で多くの人が手に取るための再製本と、美術館で閲覧するため、できるだけ寿命を延ばす必要がある本の処理はちがってきます。

- 8 修復作業の公開

材料や方法などの情報交換を修復家どうしておこなうこと、秘密があってはいけないということです。

物は残念ながら永遠には残りません。酸化は有機物には大変深刻なダメージを与えますが、酸素なしでは人が生きられません。光のダメージもありますし、温度、湿度の変化も悪い影響を与えます。このように自然に物は老朽化しますが、また一方で災害によっても破壊されます。それでも、努力をすれば延命はできます。被害を少なくすることが可能です。傷みがすすんでも、処置の記録を次の世代へと取継ぐことができます。こういった観点から、実地の処置はもちろんですが、修復家の仕事のかなりの部分が作業の記録、依頼主との話し合い、ある時は説明にさかれています。(写真9)

一方、製本という分野になると、ずっと柔軟です。ばらばらの絵手紙を1冊の本に仕立てることも可能です。ここでは先に書いたような堅い話はいりません。この辺りが製本と保存修復のちがいです。依頼主の好みや用途に合わせて製本しなおす再製本というものもあります。再製本はゼロからのスタートではない(大抵、解体作業が必要です。)ので、こちらは修復の分野が関わっています。情報の伝達手段としての書籍なら、その原物を手間ひまかけて保存しなくても良いかもしれません。このごろは1冊の本とは比較にならないほど沢山の情報が1枚のディスクに保管できます。マイクロフィルムというものもあります。しかし、工芸製本が代表するように、情報源だけでない役割も書籍は持っています。財産となるようなコレクションとまでいなくても、大事な贈り物だったり、思い出の品となる書籍はどなたもお持ちなのではないでしょうか。気に入った布を裏打ち(裏から和紙を貼ること)をして本の表紙に使ったり、構造に無理がなければいろいろな製本の可能性があります。これはというものがあれば御相談いただきたいと思います。ここでも依頼主との話し合いが大事です。また、漠然とした御希望でも材料のサンプルなどがありますの



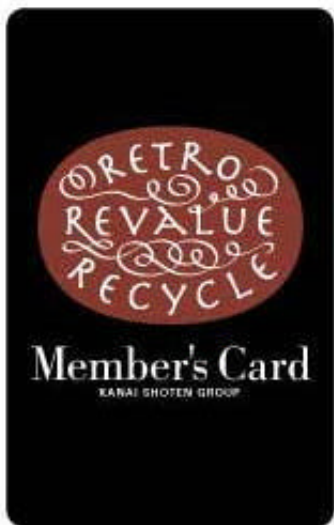
に、いろいろな御提案をさせていただきます。

このような考え方で保存修復、再製本、また、保管の仕方などの提案をさせていただきます。まず、打ち合わせをして作業行程、材料の見積もりを作成します。依頼主の確認後作業に入ります。期間はだいたい、2～3ヶ月要します。使用する材料は、現在、ヨーロッパ、アメリカ、日本で保存修復の分野にて定評のあるものを使用しています。詳しくは作業終了時に仕様書としてお渡しします。

先ずはお問い合わせ、できれば原物をお持ちいただいておりますと幸いです。

19世紀の産業革命以前の紙や、皮革などの材料は質的に安定しているものが多かったので、状態の良いまま残っているものが多いのです。しかし、大量生産が進み、質の落ちた皮革や酸性の紙は早く劣化します。大量に機械で綴じた本は昔の手がかりの本ほど丈夫でなかったりします。修復家たちが手を焼いている本は意外と若いものが多いのです。保存修復家たちは情報交換をしながら、常に新しい方法を研究、模索しています。

能津充希子 / Carta & Cuoio / 紙本、書籍保存修復家 / R.S.Books 勤務



4月より 新しい メンバーズカード誕生！

金井書店グループメンバーズカード

売っても 買っても 特典付
店舗毎に特典が工夫されています
特典内容は各店でご確認ください

従来の、ポイントカードはメンバーズカードに移行させていただきますので、ご了承ください

R.S. Books

ゆったりとした空間と、
選りすぐりの書物を用意しました。
時代を刻んだものとの
素敵な出逢いを愉しめる、
新しい形のブックショップです。

TEL & FAX
03-5204-2888

東京駅・八重洲地下街



八重洲古書館

RETRO REVALUE RECYCLE

在庫5万冊、
新しい本から価値ある本まで
幅広い品揃えて話題の店。
読み終えた本、昔の本を
お売りください。

TEL & FAX
03-3272-2888



<http://www.kosho.co.jp>